別紙１

論 文 審 査 の 要 旨

報告番号	甲・㊙ 第 3080 号	氏 名	濱田　裕子
論文審査担当者	主査　恩田　秀寿　教授 副査　西村　栄一　教授 副査　北見　由季　准教授		

（論文審査の要旨）

アミノグリコシド系抗菌剤である硫酸フラジオマイシンは感作能を有しているため，ジャパニーズスタンダードアレルゲンにも含まれている。この硫酸フラジオマイシンの感作率および感作原を検討する目的で 10 年間のパッチテスト結果を検討した。対象は 2009 年より 2018 年までに硫酸フラジオマイシンのパッチテストを施行された 242 名（男 49 名，女 193 名，平均年齢 52.4）である。パッチテストは試薬を背部の健常皮膚に貼布し，2 日後に除去、判定は貼布 2，3，7 日後に ICDRG 基準に基づいて行った。陽性反応が認められたのは 14 名（陽性率 5.8%）で，男性に比して女性で高値であった(4.1% versus 6.2%)。陽性者の平均年齢は 61.8 歳であった。陽性者 14 例中 10 例（71.4%)が接触皮膚炎の患者で，全例で顔面に皮疹が認められた。そのうち眼囲に皮疹が認められた 8 例は，いずれもステロイドと硫酸フラジオマイシンを含有する眼軟膏による治療歴を有していた。硫酸フラジオマイシンの感作者が高齢者に多いのは医療行為，特に眼軟膏によって感作が成立した可能性が高いと考え、今後使用法について再考を要すると考える。

本論文は硫酸フラジオマイシンの感作率について，新しい知見を得ており，学術上価値のあるものと考えられ、学位論文として価値の高いものと判断した。

論文題名：　硫酸フラジオマイシンの感作率に関する検討

掲載雑誌名：　昭和医学会雑誌　第 79 巻　第 5 号　　2019 年 10 月

（主査が記載、500 字以内）